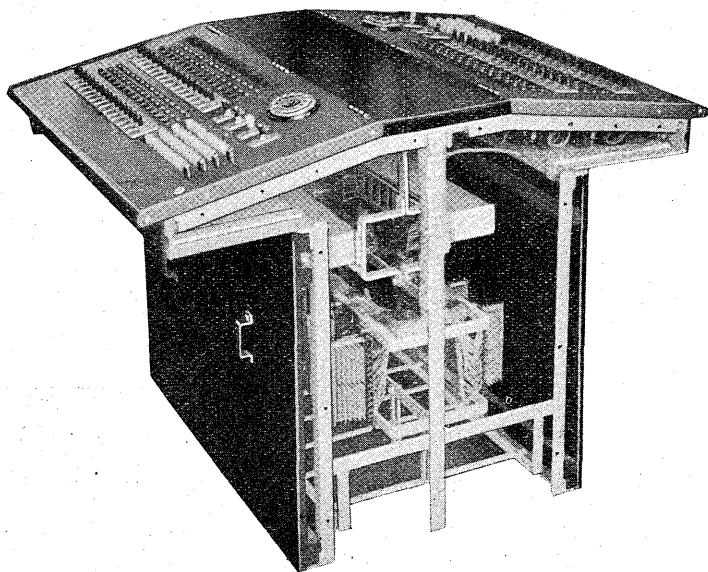


A 式 無 紐 局 線 中 繼 臺*

A式無紐局線中繼臺は構内加入者と局線との接続を行ふ装置でありまして、本中繼臺の用途は比較的大容量の電話装置に適應するものであります。

本中繼臺に併用致します自動交換機はその電源は60Vでありまして、逓信省の標準回路即ちF式自動交換機に接続するものであります。従つて比較的加入者数の多い交換装置に使用した場合経済的なのであります。坐席数は容量には無關係でこれが本中繼臺の最も



第 1 圖 四數字式A式無紐局線中繼臺ノ操作臺
(側面を開いたもの)

特徴とする處で最終容量は六數字迄接続出来る様に設計せられて有ります。第一圖は四數字式の二座席操作臺であります。

本中繼臺に最も適應せる條件は

使用電壓	60ボルト
局線數	10回線以上
私設加入者數	500回線以上

座席数は加入者數には無關係で局線の數に依り定まるのであります。

中 繼 方 式

本中繼臺の中繼方式は第二圖に示す如く、局線よりの着信に對しては着信専用の局線セレクターを局線毎

に備へ、局線セレクターへのインパルスは交換手の操作に依り、インパルスセグメントより送出せられるのであります。インパルスセグメントの故障の場合には容易にダイヤルを以て操作を代行し得るものであります。私設加入者電話機よりの自動発信は自動交換機のセレクター特殊レベルを経て行はれるのであります。

構 造

本中繼臺は操作臺と繼電器架とに分割せられ、操作に必要な電鍵、切斷鉞、ランプ、呼出鉞、交換手電話機等は總て操作臺に裝備し、その外の局線回路及び附屬回路の機器即ち繼電器、蓄電器、塞流線輪等は總て繼電器架に裝備してありますから繼電器等の點檢は容易であります。

尙本中繼臺の特徴とする點は各部に亘り完全なるバウカステンシステムを採用した點であります。

取 扱 方 法

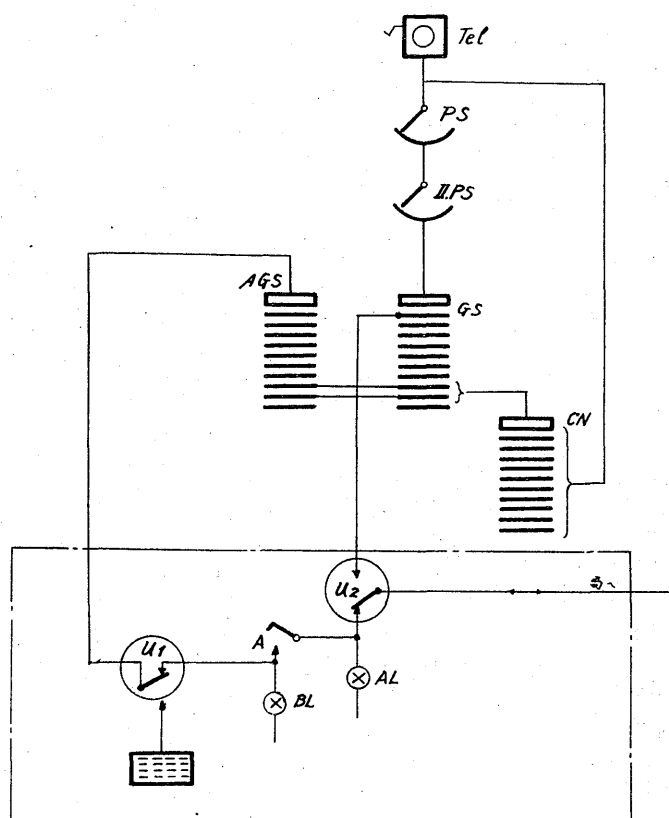
本中繼臺は發着兩用に設計せられてあります。従つてその取扱方法としても發信、着信の二通りありますから簡単に各々の取扱方法を説明致します。

1) 發信接続に就いて

發信接続も使用目的に依つて次の二通りあります。即ち市内通話をなす場合と市外通話をなす場合とに依つて發信方法が異なるのでありまして、市内通話の場合ですと對局如何に係らず自動發信が出来ますが、市外通話の場合には局側の装置並に局の方針に依つて總て交換手依頼發信と云ふ方法で接続を行ふのであります。交換手依頼發信と云ふ方法は、手動交換機と同様に交換手を呼出し、交換手に發信依頼をし發信者は一應受話器を置いて、交換手よりの呼出を待つ方法であります。

2) 着信接続に就いて

* "A" System Cordless Private Branch Exchange



第 2 圖 A 式無紐局線中繼方式圖

局線中繼臺は手動式交換臺を除けば、多少の差異はあつても、大體發信接續は如何なる方式の中繼臺でも殆んど同様であります。即ち有紐式でも無紐式でも發信接續方法（加入者の取扱方法）は殆んど同様であります。

然し着信接續の取扱方法は多種多様であつて、特に有紐式と無紐式とでは全然様子を異にして居ます。従つて局線中繼臺の特徴と云へば大半は着信接續方法にあると云つても過言ではありません。

本中繼臺も又著しい特徴を有する點は着信接續にあるもので取扱方法は下記の通りであります。

操作に必要な機器は下記の三種でありまして各局線毎に

- 應 答 電 鍵
- 私 設 呼 出 釦
- 信 號 ラ ン プ

一組宛裝備してあります。局よりの呼出に對する應答電鍵も通話中私設加入者に交換手が應答する場合の電鍵も總て一個の應答電鍵に依つて行ふもので、その間の切替は自動的には行はれるのであります。

交換手應答電鍵に依つて應答した後私設呼出釦を最高位より押下し最後に起動釦を押下すれば、自動的にインパルスが送出せられ、希望加入者を呼出し得るもので被加入者話中の場合には交換手に話中音が送出せられる故必要に依つては割込或は強制

切斷を行ふ事も出來ます。尙呼出を迅速に行ふため呼出加入者を捕ふるや直ちに第一信號電流が送出せられる様になつて居ります。従來の方式の中繼臺は多くは上述の裝置が加ないため折角迅速に加入者は捕へても呼出加入者に信號電流を送出するに無駄な時間を要し、此れがため交換能率を低下せしめて居る憾が有りましたが本方式は以上の缺點を完全に除去し得たものであります。（富士通信機技術部 麻 奥 眞 男）





*本誌に記載されている会社名および製品名は、それぞれの会社が所有する
商標または登録商標である場合があります。